

令和元年度 大阪緑涼高等学校 学校評価（報告）

<学校評価>

1. 目指す学校像

2. 中期目標

○学習指導

○生活指導

○教員研修

○進路指導

○地域連携

○広報活動

○その他の領域

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

<学校関係者評価>

- ◆藤井寺市教育長、藤井寺市区長会会長、藤井寺市春日丘自治会副会長、
辛國神社宮司との意見交換

<アンケート報告>

- ◆生徒・保護者アンケート

令和元年度 大阪緑涼高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

- (1) 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
- (2) 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
- (3) 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
- (4) HR活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
- (5) 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
- (6) 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
- (7) 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校

2. 中期目標

○学習指導

- (1) 全教員は教科の時間に責任を持ち、担任との連携を密にする。
- (2) 授業やHRなどでの私語や居眠り、立ち歩き等の妨害行為は、他の生徒の学習権への侵害であることを理解させ、授業規律確立に向けた指導を行う。
- (3) 全教員は常に自らの授業実践を相対化し、主体的・対話的で深い、魅力的な学びの機会となるよう研鑽を重ね、授業改善に取り組む。
- (4) 基礎学力の定着と向上を図るため、必要とされる生徒への補習体制を強化する。
- (5) 生活と学びを通して生徒の共同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。
- (6) 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力量の向上に努める。
- (7) 英語検定など各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。

○生活指導

- (1) 生徒一人ひとりがかげがえのない存在と認識し、分掌・学年・担任・顧問などが連携を深め、重層的で粘り強い指導を行う。適宜、校長・副校長・教頭に情報伝達し、組織として有効的な改善策を早期に講じる。
- (2) 遅刻や欠席が多い生徒については、生活の背景を含めて原因を分析し、保護者と協力・連携して克服につなげていく。
- (3) 服装や頭髪・化粧など校則違反生徒に対しては、全教員が校則遵守の意義を粘り強く説き、理解と納得を得られるよう努める。
- (4) 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、その発達課題に応じた丁寧な指導を行う。
- (5) 学校行事などを活性化させ、その集団的自治的活動を通して、生徒一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。

○教員研修

- (1) 男女共学での教育・指導方法を精査しながら本校に合うように固めていく。
- (2) 研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。
- (3) コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努める。
- (4) 授業内容改善・充実のため、公開授業や授業アンケートを実施し、より深い学びにつながるよう検討する。
- (5) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。
- (6) 大学新テストに向けて本校で行うべき取り組みを具体的に策定する。

○進路指導

- (1) 生徒が自分自身の希望と適性、能力を把握し、「なりたい自分」に向けて具体的な進路選択が可能となるよう早期からサポートを行う。
- (2) 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。
- (3) 系列大学との高大連携を進めるため、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。
- (4) 指定校推薦の充実が図れるよう大学・短大・専門学校との連携を深める。
- (5) 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実を努める。
- (6) コースによってはインターンシップなどを取り入れ進路のイメージ化を図る。

○地域連携

- (1) 藤井寺・春日丘地域を美しく保全するため地域清掃などに取り組む。
- (2) 水と緑の豊かなキャンパスを地域の保育園・幼稚園、親子散歩コースとして開放し、絵本講座も実施するなど、幼児教育の専門家を養成する本校の役割を継続する。
- (3) 課外活動・クラブ活動の発表を自治体や地域のイベント等で行い、住民とつながることで、藤井寺・南河内に根ざし、なくてはならない学校へ飛躍できるよう取り組む。
- (4) 本学の教員が中心となって公開講座や講習を行う。

○広報活動

- (1) 生徒が成長できる高校生活を保障することが最大の広報活動であることを認識し、日々の教育活動に注力する。
- (2) 全教職員の力を結集しパンフレット・ホームページなどで本校の魅力を伝え、思いやりと礼節にあふれた対応で募集活動を行い、募集定員確保に努める。
- (3) 渉外担当・企画広報部教職員のみならず、授業やクラブを担当している教員も広報活動に積極的に係わっていく。私学展やイブニング説明会等も教員が主体的に意見を出し合い、本校の魅力を発信する創意工夫された募集イベントを行う。
- (4) 近隣中学校との連携をさらに強化し、地元根付く高校を目指す。

○その他の領域

- (1) 保護者会との連携をさらに強化し、保護者からの貴重な意見を教育・指導・広報に役立てていく。
- (2) 美化に繋がる方策を教職員と生徒で熟考し、新たな取り組みを実践していく。
- (3) 防犯・健康増進に繋がる対策をさらに講じていく。
- (4) 危機管理対策について常に留意しながら、適正に運用していく。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

[自己評価アンケートの結果と分析(令和2年2月実施分)]	学校評価委員会からの意見																																																																																
<p>□学習指導</p> <p>○教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 61.1%</td> <td>65.6%、</td> <td>2018年度 61.1%</td> <td>57.2%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 26.7%</td> <td>26.0%、</td> <td>2018年度 27.2%</td> <td>30.7%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 12.2%</td> <td>8.4%、</td> <td>2018年度 11.7%</td> <td>12.1%)</td> </tr> </table> <p>心身ともに不安定な思春期の生徒にとって、最も身近な相談相手として教員が信頼を得るために、生徒理解を深めよう学習・研究・研鑽に努め、わかりやすい学習サポートやケア的な観点を持った支援をしていく必要がある。</p> <p>○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿ったわかりやすい授業を行っている</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 55.8%</td> <td>55.3%、</td> <td>2018年度 54.5%</td> <td>49.0%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 33.2%</td> <td>34.1%、</td> <td>2018年度 34.9%</td> <td>39.3%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 11.0%</td> <td>10.6%、</td> <td>2018年度 10.5%</td> <td>11.7%)</td> </tr> </table> <p>生徒の学力の実態を把握し「わかる授業」「対話的で深い授業」を通して、学ぶ喜びを実感し自己肯定感を高められるよう、各教科での具体的な目標設定の吟味とそれに応じた授業実践の検討を進めていきたい。</p> <p>○教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図るように授業を工夫し、補習や個別指導を行っている。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 62.4%</td> <td>57.8%、</td> <td>2018年度 60.4%</td> <td>57.4%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 30.2%</td> <td>31.8%、</td> <td>2018年度 32.0%</td> <td>31.1%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 7.5%</td> <td>10.5%、</td> <td>2018年度 7.6%</td> <td>11.5%)</td> </tr> </table> <p>生徒の基礎学力の回復・定着と学習意欲の向上を図るため、各教科各科目の単元に振り返りを盛り込み、ひとり一人の躓きに沿った個別対応や補習の実施が求められる。</p> <p>○教員は英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 64.9%</td> <td>64.7%、</td> <td>2018年度 61.8%</td> <td>58.7%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 27.1%</td> <td>24.1%、</td> <td>2018年度 31.1%</td> <td>30.2%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 8.0%</td> <td>11.2%、</td> <td>2018年度 7.0%</td> <td>11.1%)</td> </tr> </table> <p>放課後の英語検定対策講座、特別編成コースの対策授業に対する理解の高まりはうかがえる。受験数が大幅に増えており、今後はそれぞれの取り組みを検証し、教育内容の精選など、より丁寧なサポートに努めたい。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 61.1%	65.6%、	2018年度 61.1%	57.2%)	中間的意見	(2019年度 26.7%	26.0%、	2018年度 27.2%	30.7%)	否定的意見	(2019年度 12.2%	8.4%、	2018年度 11.7%	12.1%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 55.8%	55.3%、	2018年度 54.5%	49.0%)	中間的意見	(2019年度 33.2%	34.1%、	2018年度 34.9%	39.3%)	否定的意見	(2019年度 11.0%	10.6%、	2018年度 10.5%	11.7%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 62.4%	57.8%、	2018年度 60.4%	57.4%)	中間的意見	(2019年度 30.2%	31.8%、	2018年度 32.0%	31.1%)	否定的意見	(2019年度 7.5%	10.5%、	2018年度 7.6%	11.5%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 64.9%	64.7%、	2018年度 61.8%	58.7%)	中間的意見	(2019年度 27.1%	24.1%、	2018年度 31.1%	30.2%)	否定的意見	(2019年度 8.0%	11.2%、	2018年度 7.0%	11.1%)	<p><相談等に丁寧に応じている></p> <p>生徒への質問・相談の対応は概ね丁寧であり、肯定的意見が生徒 61.1%、保護者 65.6%、中間的意見と合わせると生徒 87.8%、保護者 91.6%が理解し、納得されている。今後はより高い評価が得られるよう、教員の資質向上と、きめ細やかな対応をはかる必要がある。</p> <p><授業のわかりやすさ・基礎学力の向上と定着></p> <p>「基礎学力の向上と定着」は「わかる授業」の設問と比較して1割近く肯定的な意見が多く、中間的意見を加えると92.6%が理解・納得している。これは授業そのものについていけない生徒たちが少なくないこと、一方でそうした生徒へのケアが各教員によって、日常的・意識的に取り組まれていることを意味している。公開授業・参観日、校内研修会を開催し改善に努める他に、官制・民間研修会や研究会・講演会などにも積極的に参加し、授業研究を進める必要がある。</p> <p><各種資格取得支援></p> <p>否定的意見が生徒 8.0%、保護者 11.2%であり、ほとんどの生徒・保護者が取り組みに理解を示している。また、大学・短期大学等の入試や就職試験等に関する資格、卒業後に仕事で活用できる資格について、早期から重要性を説明し、各種資格取得に努めたい。</p>
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 61.1%	65.6%、	2018年度 61.1%	57.2%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 26.7%	26.0%、	2018年度 27.2%	30.7%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 12.2%	8.4%、	2018年度 11.7%	12.1%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 55.8%	55.3%、	2018年度 54.5%	49.0%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 33.2%	34.1%、	2018年度 34.9%	39.3%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 11.0%	10.6%、	2018年度 10.5%	11.7%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 62.4%	57.8%、	2018年度 60.4%	57.4%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 30.2%	31.8%、	2018年度 32.0%	31.1%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 7.5%	10.5%、	2018年度 7.6%	11.5%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 64.9%	64.7%、	2018年度 61.8%	58.7%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 27.1%	24.1%、	2018年度 31.1%	30.2%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 8.0%	11.2%、	2018年度 7.0%	11.1%)																																																																													
<p>□生活指導</p> <p>○あなたは本校に入学してよかった・子どもを本校に入学させてよかった</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 61.1%</td> <td>75.5%、</td> <td>2018年度 63.2%</td> <td>73.7%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 22.1%</td> <td>15.2%、</td> <td>2018年度 24.7%</td> <td>16.0%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 16.8%</td> <td>9.3%、</td> <td>2018年度 12.0%</td> <td>10.3%)</td> </tr> </table> <p>保護者の肯定的な回答が増加を見せ、全体の3分の2が「させてよかった」と評価している。一方で、生徒は肯定的意見がわずかながら減少していることを真摯に受け止める必要がある。「入学してよかった」という生徒の高校生活への満足感は学校・教員の教育活動の総体と信頼関係を如実に反映するものであり、あらゆる教育活動を通して数値の抜本的な引き上げに取り組む必要がある。</p> <p>○学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 58.4%</td> <td>57.4%、</td> <td>2018年度 56.7%</td> <td>54.6%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 32.7%</td> <td>32.4%、</td> <td>2018年度 32.1%</td> <td>34.5%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 8.9%</td> <td>10.2%、</td> <td>2018年度 11.2%</td> <td>10.9%)</td> </tr> </table> <p>全教員が一人ひとりの生徒への目配りを徹底し、保健室・カウンセラーと緊密な連携を重ね、より親身で手厚いサポートを行いたい。</p> <p>○教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> <td style="text-align: center;">生徒</td> <td style="text-align: center;">保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 58.4%</td> <td>58.9%、</td> <td>2018年度 55.1%</td> <td>54.6%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 27.5%</td> <td>32.4%、</td> <td>2018年度 30.5%</td> <td>31.7%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 14.1%</td> <td>8.6%、</td> <td>2018年度 14.4%</td> <td>13.7%)</td> </tr> </table> <p>朝夕のSHRやLHRでクラス・生徒の些細な変化をも見逃すことなく、時宜を得た指導を行う必要がある。研修等を通してクラス集団は「作る」ものであることを共通認識として生徒との関わりを見直す必要がある。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 61.1%	75.5%、	2018年度 63.2%	73.7%)	中間的意見	(2019年度 22.1%	15.2%、	2018年度 24.7%	16.0%)	否定的意見	(2019年度 16.8%	9.3%、	2018年度 12.0%	10.3%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 58.4%	57.4%、	2018年度 56.7%	54.6%)	中間的意見	(2019年度 32.7%	32.4%、	2018年度 32.1%	34.5%)	否定的意見	(2019年度 8.9%	10.2%、	2018年度 11.2%	10.9%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 58.4%	58.9%、	2018年度 55.1%	54.6%)	中間的意見	(2019年度 27.5%	32.4%、	2018年度 30.5%	31.7%)	否定的意見	(2019年度 14.1%	8.6%、	2018年度 14.4%	13.7%)	<p><入学してよかった></p> <p>保護者からの本校教育への信頼の高まりは本校教育の一つの成果であり、さらに生徒自身が本校での教育活動を通して成長を実感することで、胸を張って「入学してよかった」といえる高校生活を保障していきたい。</p> <p><生徒の心身の健康維持を支援></p> <p>人間関係をうまく取り結ぶことができず、心的な不調を抱える生徒が多い中、保健室・カウンセラーの丁寧な相談と対応が浸透してきており、生徒・保護者ともに肯定的意見が増加している。保健便りの定期発行もあり、時宜に見合った健康増進への啓発活動が取り組まれている。</p> <p><生徒の理解やクラス作りの積極的取り組み></p> <p>担任の生徒理解やクラスづくりについては生徒・保護者ともに肯定的意見が増加、否定的意見が減少を見せ、この分野についての献身的な取り組みが評価されている。一方で、緑涼祭など自治的活動・課外活動についての評価が低下しており、そうした活動を「生徒まかせ」にすることなく、学年やクラスの到達に見合う必要な指導について教員が一層の研鑽を重ね、充実した取り組みに変えていく必要がある。</p>																				
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 61.1%	75.5%、	2018年度 63.2%	73.7%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 22.1%	15.2%、	2018年度 24.7%	16.0%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 16.8%	9.3%、	2018年度 12.0%	10.3%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 58.4%	57.4%、	2018年度 56.7%	54.6%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 32.7%	32.4%、	2018年度 32.1%	34.5%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 8.9%	10.2%、	2018年度 11.2%	10.9%)																																																																													
	生徒	保護者	生徒	保護者																																																																													
肯定的意見	(2019年度 58.4%	58.9%、	2018年度 55.1%	54.6%)																																																																													
中間的意見	(2019年度 27.5%	32.4%、	2018年度 30.5%	31.7%)																																																																													
否定的意見	(2019年度 14.1%	8.6%、	2018年度 14.4%	13.7%)																																																																													

<p>○緑涼祭や弁論・コーラス大会、修学旅行、校外学習、課外活動等、学校生活は楽しく充実している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 64.5%)</td> <td>73.3%</td> <td>2018年度 72.0%</td> <td>74.8%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 22.8%)</td> <td>16.2%</td> <td>2018年度 21.3%</td> <td>18.0%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 12.7%)</td> <td>10.5%</td> <td>2018年度 6.8%</td> <td>7.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>行事や部活など課外活動の楽しさと充実感の高さは本校教育の中核であり、生徒保護者のニーズにより高いレベルで応えていくためにも取り組みをさらに強化させていきたい。</p> <p>○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 56.3%)</td> <td>61.7%</td> <td>2018年度 59.5%</td> <td>55.6%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 32.2%)</td> <td>28.1%</td> <td>2018年度 32.5%</td> <td>36.0%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 11.5%)</td> <td>10.2%</td> <td>2018年度 8.0%</td> <td>8.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>保護者は肯定的意見が微増しているものの、生徒は減少している。また、生徒・保護者ともに否定的な意見が微増しており、この分野について教員の研鑽を深める必要がある。若い教員が増える中で、部活や生徒会への今日的指導を質・量ともに向上させ、肯定的回答 70%超を目指したい。</p> <p>○学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 52.1%)</td> <td>61.8%</td> <td>2018年度 59.7%</td> <td>60.4%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 27.5%)</td> <td>21.3%</td> <td>2018年度 27.9%</td> <td>24.1%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 20.5%)</td> <td>16.9%</td> <td>2018年度 12.4%</td> <td>15.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒・保護者ともに一定の理解が得られていると思われるが、学校生活の基本に関わる指導だけに、納得のいく指導を重ねていくことが必要になる。今後も生徒の状況に応じたより丁寧な指導を重ねていきたい。</p>	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 64.5%)	73.3%	2018年度 72.0%	74.8%	中間的意見 (2019年度 22.8%)	16.2%	2018年度 21.3%	18.0%	否定的意見 (2019年度 12.7%)	10.5%	2018年度 6.8%	7.2%	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 56.3%)	61.7%	2018年度 59.5%	55.6%	中間的意見 (2019年度 32.2%)	28.1%	2018年度 32.5%	36.0%	否定的意見 (2019年度 11.5%)	10.2%	2018年度 8.0%	8.4%	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 52.1%)	61.8%	2018年度 59.7%	60.4%	中間的意見 (2019年度 27.5%)	21.3%	2018年度 27.9%	24.1%	否定的意見 (2019年度 20.5%)	16.9%	2018年度 12.4%	15.5%	<p><クラブ・生徒会活動の支援> 学校行事と合わせ、この分野は生徒たちに豊かな高校生活を保障するうえで極めて重要であり、指導力の抜本的な向上を図り、充実させていきたい。</p> <p><学校生活における適切な指導> 生徒の肯定的意見が減少し、否定的意見が増加していることから遅刻や身だしなみ・頭髪等について指導への理解が十分ではないことがうかがえる。指導とは相手への説得を尽くし、納得を得る営みであり、より一層丁寧で粘り強い指導が求められている。</p>
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 64.5%)	73.3%	2018年度 72.0%	74.8%																																														
中間的意見 (2019年度 22.8%)	16.2%	2018年度 21.3%	18.0%																																														
否定的意見 (2019年度 12.7%)	10.5%	2018年度 6.8%	7.2%																																														
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 56.3%)	61.7%	2018年度 59.5%	55.6%																																														
中間的意見 (2019年度 32.2%)	28.1%	2018年度 32.5%	36.0%																																														
否定的意見 (2019年度 11.5%)	10.2%	2018年度 8.0%	8.4%																																														
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 52.1%)	61.8%	2018年度 59.7%	60.4%																																														
中間的意見 (2019年度 27.5%)	21.3%	2018年度 27.9%	24.1%																																														
否定的意見 (2019年度 20.5%)	16.9%	2018年度 12.4%	15.5%																																														
<p>○学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 46.6%)</td> <td>47.7%</td> <td>2018年度 51.1%</td> <td>41.9%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 41.2%)</td> <td>40.4%</td> <td>2018年度 32.7%</td> <td>38.3%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 12.1%)</td> <td>11.9%</td> <td>2018年度 16.2%</td> <td>19.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>いじめの実態解明と解決には教員と生徒・保護者との丁寧な連携や信頼関係が不可欠であり事象発生の背景を含め、深い生徒理解のための研鑽を重ね、そうした関わりを構築していきたい。また、加害・被害双方の生徒への指導の在り方について研鑽を重ねていく必要がある。</p> <p>○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 58.0%)</td> <td>47.1%</td> <td>2018年度 55.5%</td> <td>41.6%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 33.3%)</td> <td>42.6%</td> <td>2018年度 35.5%</td> <td>41.8%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 8.7%)</td> <td>10.3%</td> <td>2018年度 9.0%</td> <td>16.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒・保護者ともに肯定的意見が増加し、否定的意見が減少に転じている。授業や総合学習やLHRを通じて、平和・ジェンダー・人権等についての本校の取り組みに対する理解と評価がうかがえる。建学の理念と合わせ、高い人権意識を有した「世に役立つ」生徒の人格形成を図るよういっそう努める必要がある。</p>	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 46.6%)	47.7%	2018年度 51.1%	41.9%	中間的意見 (2019年度 41.2%)	40.4%	2018年度 32.7%	38.3%	否定的意見 (2019年度 12.1%)	11.9%	2018年度 16.2%	19.8%	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 58.0%)	47.1%	2018年度 55.5%	41.6%	中間的意見 (2019年度 33.3%)	42.6%	2018年度 35.5%	41.8%	否定的意見 (2019年度 8.7%)	10.3%	2018年度 9.0%	16.6%	<p><いじめ防止の取り組み・人権教育> 学期ごとのアンケート(1学期のみ無記名)と日常的な生徒の動向を把握する必要がある。保護者との連携を密にし、生徒たちが相談しやすい環境作りに努める。いじめに関して生徒の否定的意見は減少しているものの、肯定的意見も減少しており、問題が潜伏していないか注視する必要がある。保護者は肯定的意見が増加、否定的意見が減少し、学校がいじめ問題や人権問題に真摯に取り組んでいることは伝わりつつある。ただし、生徒・保護者ともにこの問題に関して十分な信頼を得るには至っておらず、地道に取り組みを継続する必要がある。</p>																
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 46.6%)	47.7%	2018年度 51.1%	41.9%																																														
中間的意見 (2019年度 41.2%)	40.4%	2018年度 32.7%	38.3%																																														
否定的意見 (2019年度 12.1%)	11.9%	2018年度 16.2%	19.8%																																														
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 58.0%)	47.1%	2018年度 55.5%	41.6%																																														
中間的意見 (2019年度 33.3%)	42.6%	2018年度 35.5%	41.8%																																														
否定的意見 (2019年度 8.7%)	10.3%	2018年度 9.0%	16.6%																																														
<p>□教員研修 ○学校は建学の理念や教育目標をわかりやすく示し、教育に反映させている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 45.8%)</td> <td>56.6%</td> <td>2018年度 52.3%</td> <td>50.6%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 37.4%)</td> <td>31.6%</td> <td>2018年度 34.8%</td> <td>35.2%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 16.7%)</td> <td>11.8%</td> <td>2018年度 12.9%</td> <td>14.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>毎朝の正門指導でのあいさつ励行やコミュニケーションキャンプ、始業式、終業式などでの校長講話を通して、建学の理念・教育目標はわかりやすい挿話とともに繰り返し伝えられている。これを日常の教育活動や実践に具体化し、結実させていきたい。</p>	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 45.8%)	56.6%	2018年度 52.3%	50.6%	中間的意見 (2019年度 37.4%)	31.6%	2018年度 34.8%	35.2%	否定的意見 (2019年度 16.7%)	11.8%	2018年度 12.9%	14.2%	<p><建学の理念や教育目標の理解> 生徒・保護者ともに否定的意見が減少し、建学の理念や教育目標は浸透・理解されてきているように思われる。さらに、あらゆる指導場面において、より深い理解を促し、生徒がその実現者となりうるよう進めていく必要がある。</p>																																
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 45.8%)	56.6%	2018年度 52.3%	50.6%																																														
中間的意見 (2019年度 37.4%)	31.6%	2018年度 34.8%	35.2%																																														
否定的意見 (2019年度 16.7%)	11.8%	2018年度 12.9%	14.2%																																														
<p>□進路指導 ○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見 (2019年度 61.1%)</td> <td>62.9%</td> <td>2018年度 60.4%</td> <td>57.4%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見 (2019年度 31.0%)</td> <td>28.3%</td> <td>2018年度 32.0%</td> <td>31.1%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見 (2019年度 8.0%)</td> <td>8.8%</td> <td>2018年度 7.6%</td> <td>11.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>担任だけでなく、副担任、教科担当、進路指導部、進路アドバイザーが連携して一人ひとりの希望に応じた進路相談やアドバイスをを行っている。今後も一層生徒との信頼関係を深め、入試制度の変更に関する情報を収集・提供し、よりの確で親身な指導を実現できるよう教員の資質向上の機会を重ねていきたい。</p>	生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見 (2019年度 61.1%)	62.9%	2018年度 60.4%	57.4%	中間的意見 (2019年度 31.0%)	28.3%	2018年度 32.0%	31.1%	否定的意見 (2019年度 8.0%)	8.8%	2018年度 7.6%	11.5%	<p><丁寧な進路指導> 1、2年次では生徒一人ひとりの進路にかかわる興味関心や希望を引き出す総合学習を実施し、3年生の進路選択について丁寧な指導を重ねたことで保護者からの肯定的意見が増加している。各科、各コースの生徒たちが希望する進路情報をきめ細かく提供し、希望進路の実現に向け取り組む。</p>																																
生徒	保護者	生徒	保護者																																														
肯定的意見 (2019年度 61.1%)	62.9%	2018年度 60.4%	57.4%																																														
中間的意見 (2019年度 31.0%)	28.3%	2018年度 32.0%	31.1%																																														
否定的意見 (2019年度 8.0%)	8.8%	2018年度 7.6%	11.5%																																														

<p>□その他の領域</p> <p>○学校は学年通信やお便り、谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校への様子をお知らせしている。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 52.8%</td> <td>62.8%、</td> <td>2018年度 52.4%</td> <td>55.9%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 35.8%</td> <td>27.3%、</td> <td>2018年度 31.9%</td> <td>29.6%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 11.4%</td> <td>9.8%、</td> <td>2018年度 15.7%</td> <td>15.4%)</td> </tr> </table> <p>通学区域が広く、思春期の生徒とコミュニケーションでは伝わり切らない学校生活の様子や警報を含む連絡事項を保護者に知らせる各種ツールを重層的に活用し、さらに、徹底する必要がある。最も確実とされる谷学ネット登録率向上を図り、家庭との緊密な連携を図りたい。</p> <p>○学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>(2019年度 55.3%</td> <td>61.8%、</td> <td>2018年度 58.6%</td> <td>65.6%)</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>(2019年度 30.0%</td> <td>27.1%、</td> <td>2018年度 31.0%</td> <td>23.5%)</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>(2019年度 14.7%</td> <td>11.1%、</td> <td>2018年度 10.4%</td> <td>10.8%)</td> </tr> </table> <p>老朽化が進行し、防音性に課題のある3号館・体育館に加え、1号館でも空調機器に水漏れが発生するなど、メンテナンスが喫緊の課題となっている。生徒が安心して学習や課外活動に集中できるよう、安全で快適な教育環境整備に積極的に取り組んでいきたい。</p>		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 52.8%	62.8%、	2018年度 52.4%	55.9%)	中間的意見	(2019年度 35.8%	27.3%、	2018年度 31.9%	29.6%)	否定的意見	(2019年度 11.4%	9.8%、	2018年度 15.7%	15.4%)		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	(2019年度 55.3%	61.8%、	2018年度 58.6%	65.6%)	中間的意見	(2019年度 30.0%	27.1%、	2018年度 31.0%	23.5%)	否定的意見	(2019年度 14.7%	11.1%、	2018年度 10.4%	10.8%)	<p><学校の様子をお知らせ></p> <p>教育懇談会や学校行事についてプリント配布するだけでなく、谷学ネットやホームページを用いて学校の様子を適宜発信してきたことで、保護者からの肯定的意見が増え、中間的意見と合わせると9割を超えている。今後も保護者に学校教育に関する情報を提供し、緊密な連携を図るため、谷学ネットやホームページをより効果的に運用していきたい。</p> <p><施設設備の完全管理></p> <p>樹木の剪定や清掃の行き届いた校舎やキャンパスを生徒たちが丁寧に使用する文化として定着しているため、肯定的意見と中間的意見を合わせ生徒85.3%、保護者88.9%が納得・満足している。一方で設備の点検を怠らず、安全・安心を第一に改修と整備に努める必要がある。</p>
	生徒	保護者	生徒	保護者																																					
肯定的意見	(2019年度 52.8%	62.8%、	2018年度 52.4%	55.9%)																																					
中間的意見	(2019年度 35.8%	27.3%、	2018年度 31.9%	29.6%)																																					
否定的意見	(2019年度 11.4%	9.8%、	2018年度 15.7%	15.4%)																																					
	生徒	保護者	生徒	保護者																																					
肯定的意見	(2019年度 55.3%	61.8%、	2018年度 58.6%	65.6%)																																					
中間的意見	(2019年度 30.0%	27.1%、	2018年度 31.0%	23.5%)																																					
否定的意見	(2019年度 14.7%	11.1%、	2018年度 10.4%	10.8%)																																					

※各項目における「肯定的意見」、「中間的意見」、「否定的意見」のパーセンテージは、少数点第2位を四捨五入していることから100%にならない場合があります。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	<p>(1) 全教員は教科の時間に責任を持ち、担任との連携を密にする。</p> <p>(2) 授業やHRなどでの私語や居眠り、立ち歩き等の妨害行為は、他の生徒の学習権への侵害であることを理解させ、授業規律確立に向けた指導を行う。</p> <p>(3) 全教員は常に自らの授業実践を相対化し、主体的・対話的で深い、魅力的な学びの機会となるよう研鑽を重ね、授業改善に取り組む。</p> <p>(4) 基礎学力の定着と向上を図るため、必要とされる生徒への補習体制を強化する。</p> <p>(5) 生活と学びを通して生徒の共同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。</p> <p>(6) 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力量の向上に努める。</p> <p>(7) 英語検定など各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。</p>	<p>・教員への指導・周知を徹底</p> <p>・各教科担当への指導の徹底 ・各担任が生徒・保護者への周知</p> <p>・公開授業と授業参観の実施 ・管制・民間の実施する教員向け研修会への積極的参加呼びかけ</p> <p>・欠点者補習の定期実施 ・外部講師による放課後学習 ・自習室の確保 ・生徒からの質問や個別学習</p> <p>・総合的探究の時間でのポスターセッションや模擬市長選投票</p> <p>・各コース・委員会の会議実施</p> <p>・漢字検定 ・英語検定に対する放課後セミナー</p>	<p>各学期後3日間実施</p> <p>適宜実施</p>	<p>(1) 教員の出張・休暇等による授業の遅れが生じないよう、教務部と連携して授業変更や、教科内で自習課題準備や代替授業などで対応し、授業の遅滞が起こらないようにした。</p> <p>(2) 定期テストの欠点者や学習に不安を持つ生徒に対して、長期休暇中ごとに指名補習を実施し、学習の遅れや次の単元につながる予習的講義を行った。「わかる」体験を実感させることで基礎学力の向上と定着、自信の回復に努めた。</p> <p>(3) 教員それぞれが公開授業や参観授業についての意見交流や感想文提出、授業アンケートの結果の分析・検討などは行った。今後は教科会議を積極的に活用し、教員間で授業の状況を率直に出し合い、授業成立と活性化など改善のために何が必要か討議する機会としたい。</p> <p>(4) 教務部が教科からの時間数要望をうけて補習時間割を作成し、教科担当者が対象生徒に周知し、各担任からも三者懇談の際に徹底を図った。参加した生徒にとって「懲戒」ではなく「次につながる学びの機会」であることが理解され、参加率も高く、苦手教科の克服に役立った。</p> <p>(5) 社会科が学年と共同し、総合的探究の時間に向けて藤井寺市の市政上の課題を学び、必要な施策を検討させる取り組みを行った。各グループで討議し、協議して「マニフェスト(施策)」にまとめ、プレゼンを行う中で、自治体や首長の役割、未来の主権者としての役割を自覚する機会となった。</p> <p>(6) 調理製菓科は学科長が、普通科3コースは各コース委員長が中心になって新カリキュラム策定も含め、授業内容の検討を行った。</p> <p>(7) 文理ハイレベルコースでは通常授業に科目として設置し、その他の学科・コースでは、外部講師による準2級、2級対象放課後学習講座「英検セミナー」を開講している。受験生は昨年度に比べて大幅に増加しているのは、担任や教科担当者から繰り返し資格の有用性が語られてきた成果であろう。一方で、外部講師による「英検セミナー」への参加者は漸次減少する傾向があり、今後、担任や教科から英語検定に向けた学習機会の必要性について保護者も含め、あらためて周知する必要がある。</p> <p>・漢字検定結果 2級：受験者数55名 合格者数2名(合格率3.6%) 準2級：受験者数136名 合格者数9名(合格率8.8%) 3級：受験者数195名 合格者数19名(合格率10.1%) 4級：受験者数12名 合格者数1名(合格率8.3%)</p> <p>・英語検定結果 準1級：受験者数1名 合格者数0名(合格率0%) 2級：受験者数34名 合格者数3名(合格率8.8%) 準2級：受験者数111名 合格者数14名(合格率12.6%) 3級：受験者数25名 合格者数17名(合格率68.0%)</p>
生活指導	<p>(1) 生徒一人ひとりをかけがえのない存在と認識し、分掌・学年・担任・顧問などが連携を深め、重層的で粘り強い指導を行う。適宜、校長・副校長・教頭に情報伝達し、組織として有効的な改善策を早期に講じる。</p> <p>(2) 遅刻や欠席が多い生徒については、生活の背景を含めて原因を分析し、保護者と協力・連携して克服につ</p>	<p>管理職、各学年、保健室、カウンセラー、治療機関などとの連携</p>	<p>毎日実施</p> <p>毎週実施</p>	<p>(1) 毎朝の校門指導を教員4名と教頭も参加し、積極的にコミュニケーションを図っている。登校時に生徒の反応や表情を丁寧に複眼的に観察し、担任や教科担当と共有することで欠席や遅刻の原因ともなる生徒の心身の状況を把握し、それに応じた指導を行うように努めた。</p> <p>(2) (4) 毎週、不登校委員会(管理職、養護教諭、カウンセラー、各学年担当)を開催し、「気にかかる生徒」の状況について詳細な報告を行い情報共有を図った。経済的困窮や複雑な家庭環境を背景に持つ生徒が多く、精神的な不安定さが身体的不調となって現れるケースが目立った。担任・保健室が家庭と連携を取り、必要に応じてカウンセリングも視野に入れながら対</p>

	<p>なげしていく。</p> <p>(3) 服装や頭髪・化粧など校則違反生徒に対しては、全教員が校則遵守の意義を粘り強く説き、理解と納得を得られるよう努める。</p> <p>(4) 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、その発達課題に応じた丁寧な指導を行う。</p> <p>(5) 学校行事などを活性化させ、その集团的自治的活動を通して、生徒一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。</p>		<p>適宜実施</p> <p>各学期適宜実施</p>	<p>応じた。 ジェンダーに配慮した指導は当事者である生徒の思いを丁寧に聴き取り、適切な対応がなされている。</p> <p>(3) 各学期初めの頭髪・身嗜み指導など、学年集会やLHRの時間を通じて指導方針や校則についてその必要性を説明し、保護者にも連絡を取りあい協力を依頼してきた。 身嗜みや遅刻指導を「懲戒」へ直結させず、生徒たちの自律的な姿勢を育むために、どのようにアプローチし、内面に届く指導を構築する必要がある。 頭髪指導に比して、化粧、スカート、爪の指導は不十分さを残している。 半数の生徒が「学校の指導は適切である」としているものの、否定的回答が20.5%にのぼっており、より粘り強い説得的な指導が必要と感じている。</p> <p>(5) 若い担任が急増する中で、行事づくりに関する教示が習熟しておらず、行事づくりの意義・目的が十分認識されていない傾向もみられる。「初めて文化祭づくりに取り組むあなたへ講座」を開催したものの、参加者も少なく、学校行事を生徒とクラスの成長につなげる発想はまだ共通認識とはなっていない。</p>
<p>教員研修</p>	<p>(1) 男女共学での教育・指導方法を精査しながら本校に合うように固めていく。</p> <p>(2) 研修・研究会に参加し、教育力・指導力を高める。本校の教育に必要なテーマについて適宜、校内での研修会も開催する。</p> <p>(3) コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践に努める。</p> <p>(4) 授業内容改善・充実のため、従来より効果が上がるよう検討し、公開授業や授業アンケートを実施する。</p> <p>(5) 保護者アンケート・生徒アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努める。</p> <p>(6) 大学新テストに向けて本校で行うべき取り組みを具体的に策定する。</p>	<p>・系列高校との学習・交流・見学</p> <p>・校内での講座・研修会実施 ・官制・民間の各種教育研究会・教員研修会への参加案内と促進 ・3 高校合同教員研修会の実施</p> <p>・各教員の公開授業 ・校内教員研修会の実施</p>	<p>適宜実施</p> <p>適宜実施</p> <p>2 学期に1 週間、公開授業を実施</p> <p>年1 回以上実施</p> <p>年1 回実施</p> <p>適宜実施</p>	<p>(1) 系列高校（大阪商業大学高校、大阪商業大学堺高校）の教育活動（募集イベント、勤労感謝祭）に参加、3 高校合同教員研修会での分科会報告と討議などを通して、本校の実態に即した教育のあり方、指導方法について学んできた。</p> <p>(2) 「わかりやすい授業が行われている」「生徒の基礎学力の定着と向上を図るよう授業を工夫し、補習や個別指導が行われている」について肯定的意見が増え、「面倒見の良さ」への評価が高まりつつある。研修会参加、公開授業を積極的に活用し、各教科会議で授業実践の分析と検討を行えるよう準備を進めている。 研修会では、企画広報部会による本校の各学科・コースの目標や特徴、校長補佐・教頭による新制度入試や新カリキュラム編成などを学習し、授業やシラバスにも反映させるよう努めた。 3 高校の実行委員会協議を重ね、現場が直面する課題に答えうる研究者の講演や3 高校持ち寄りの分科会設定など内容の充実、教職員間の親睦が図れるよう輪番で開催している。今年度は8 月に和歌山大学教育学部准教授による『教育現場におけるケアの観点と実践』と題した講演と8 つの分科会・フィールドワーク、全体交流会が本校を会場に開催された。本校では調理・製菓の実習体験型分科会と藤井寺市・葛井寺の協力を得てアイセルシュラホールも含めた地域を学ぶフィールドワークに取り組み、開催校の独自性を発揮した取り組みを行った。</p> <p>(3) (4) 各教員が公開授業を実施し、他教員の授業を見学する形式で毎年継続的に実施している。見学後の意見交換や感想文用紙を通して、授業内容を点検し、授業改善につなげるなど自己研鑽に役立てている。 「出前授業」や「受け入れ授業」、保護者授業参観（11 月）などに取り組み、授業公開を進め、教室と教育の「風通し」を図る中で、自らの実践を相対化し、スキル向上につなげた。</p> <p>(5) アンケート結果を学校評価委員会で分析・検討し、課題を明確にした上で翌年度の取り組みに反映させた。</p> <p>(6) 新制度入試が当初の計画から変更となった部分（英語の民間検定導入見送り・国語と数学の記述式問題中止など）について、クラスや教科、総合学習などの機会に生徒への周知にあたった。 保護者には3 月中旬に新制度入試の全体像（共通テスト含む）をお知らせする教育懇談会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症による臨時休校措置により、全体としてお知らせする機会は持てなかった。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">進路指導</p>	<p>(1) 生徒が自分自身の希望と適性、能力を把握し、「なりたい自分」に向けて具体的な進路選択が可能となるよう早期からサポートを行う。</p> <p>(2) 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>(3) 系列大学との高大連携を進めるため、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。</p> <p>(4) 指定校推薦の充実が図れるよう大学・短大・専門学校との連携を深める。</p> <p>(5) 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努める。</p> <p>(6) コースによってはインターシップなどを取り入れ進路のイメージ化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合の探究の時間」やLHRを利用し、大学・短大・専門学校の違い、学部学科選定、入試制度について周知 ・学長講演や大阪商業大学教授による「ビジネスアイデア甲子園」講義 ・4年制大学・短期大学 ・専門学校 ・協定校・指定校について ・入試方法変更について ・閲覧しやすいファイルにまとめる 		<p>(1) 総合的な学習の時間において、進路ガイダンス・学部学科を調べよう・系列大学説明会など様々なテーマを通じて進路に対する知識と意識を向上させた。また、近畿大学・京都産業大学、看護系大学等に合格した3年生による進路実現に向けた体験を、1・2年文理ハイレベルコース生徒対象に話す機会を設けた。</p> <p>(2) 4年制大学へ34名(43%、前年度22%)の生徒が進学した。前年度と比較して4年制大学への進学は倍増した。学力試験や本格的な小論文を課すA0・公募推薦・一般入試・センター試験などに挑み「入れる大学」よりも「入りたい大学」を希望する生徒が増加した。短期大学17名(21.5%、前年度31.4%)、専門学校には21名(26.6%、前年度22.9%)の生徒が進学し、看護医療系分野への進学が目立った。</p> <p>(3) 高大接続授業で系列大学の大阪商業大学から学長を招聘して講演会、また教授を招き「ビジネスアイデア甲子園」の趣旨や着想法、起業などについて講義していただき、系列大学で学ぶ魅力を伝え、系列大学進学者は1名であった。今年度卒業生は最後の女子校世代で在籍人数も極めて少なく、社会科学系、芸術系への進学を希望する生徒そのものが多くはなかった。女性が自立して生きていく上で有用な保育・看護・栄養系など公的資格を目指す進学先が多かったことも原因のひとつと考えられる。</p> <p>(4) 指定校に関しては、職員室前に掲示し、全学年の生徒たちの進路意識向上の機会ともなった。大阪夕陽丘学園短期大学、大阪樟蔭女子大学、帝塚山学院大学、神戸親和女子大学、四天王寺大学、東大阪大学、千里金蘭大学と協定を結び、多様な選択肢を示すことができた。4年制大学では協定校・指定校・スポーツ推薦(67%)、公募・A0推薦(30%)であり、短期大学では協定校・指定校・スポーツ推薦(71%)、公募・A0推薦(24%)であり、指定校推薦を利用する生徒が多かった。また、専門学校に関して指定校推薦(9.5%)、A0入試(67%)とほとんどがA0入試を利用している。指定校・協定校による推薦入試を軸としつつ、学力等で受験する生徒への補習は継続的に実施されたが、組織的な取り組みに発展させることが望まれる。</p> <p>(5) (6) 求人票を業種別にファイルにまとめ、進路指導部・担任で繰り返し丁寧な面接指導を行い、希望者は全員就職を果たすことができた。今年度の就職は7名(8.9%、前年度11.9%)であった。とりわけ、来年度一期生が卒業する調理製菓科については生徒の希望進路を聴取しつつ、長期休暇等を利用してホテルやレストラン施設等でのインターンシップを実施した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">その他</p>	<p>(1) 生徒会を中心に、校内外のマナー向上を検討し、実践していく。</p> <p>(2) 美化につながる方策を教職員と生徒で熟考し、あらたな取り組みを実践していく</p> <p>(3) 防犯・健康増進につながる対策をさらに講じていく。</p> <p>(4) 危機管理対策について、スムーズに運用できるように体制作りを行う。</p> <p>(5) 校務運営の円滑化と管理職の相談体制の再構築を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー意識の向上 ・具体的な企画の立案・実施 ・環境美化活動を企画・実施 ・美化意識の向上 ・教育環境づくりの意識涵養 ・講習会 ・緊急支援物資の購入 ・講習会等の実施 ・定例会議での議事録の閲覧による問題意識の共有化 ・必要に応じて管理職が各分掌会議等に参加 	<p>年複数回実施</p> <p>学校全体で行う定期的な清掃活動の実施</p> <p>適宜購入</p> <p>年数回実施</p> <p>適宜実施</p>	<p>(1) 生徒会執行部で「今月の目標」を討議・決定し、校舎や教室内に掲示し、全校生徒にマナー向上を呼びかけた。また、生徒会主催でクラブ員を中心に秋季の地域清掃活動に取り組んだ。さらに4月には生徒会執行部が正門での挨拶運動に取り組んだ。</p> <p>(2) 教員・生徒会を中心に、ホームルーム教室のみならず、廊下や特別教室の清掃、整理・整頓に努める指導を行ってきた。2ヶ月に一度の大掃除をはじめ、清掃に関しては徹底されていた。整理・整頓に関しては普段からの習慣付けがまだ浸透せず、クラスによる到達度に差が見られる。清潔で整頓された教室は、落ち着いて授業を受ける前提であり、担任を通してクラスに徹底を図りたい。</p> <p>(3) 避難訓練、教員対象AED講習会、AEDのバッテリー・パッドの交換など設備面での安全確保と防災対策を施した。美しい制服の着こなし講座、ネットトラブル防止に向けて、自転車安全運転、性教育、薬物乱用防止などの各種講演会を行い学習の機会を持った。</p> <p>(4) 学校周辺の駐停車や騒音による近隣トラブルに関して情報共有を図り、一貫した対応策を構築し、信頼関係を築いている。募集イベント、公開行事などの際に警備体制の強化について、管理職を中心に協議し全教職員で実行した。</p> <p>(5) 学校をめぐる状況が激変する中で、「相談しやすい体制の構築」へ向けた取り組みの中で、生活指導面の課題などを少しずつ改善することができた。教務部では成績不振者対象補習など、生徒を第一に考えた企画を実行している。</p>

学校関係者評価 懇談会議事録

日 時：令和 2 年 10 月 16 日（金）13 時 00 分～14 時 25 分

場 所：事務棟 3 階 第一会議室

出席者：藤井寺市教育長、藤井寺市区長会会長、春日丘自治会副会長、辛國神社宮司
校長、副校長、校長補佐、教頭、教頭、事務長

○自己紹介

○校長挨拶

昨年 1 年間、本校の教育がどのようなようであったかを評価いただきたいと評価者に依頼された。男女共学がスタートし、3 年が経過、今まで以上に活気があふれる学校となってきたと感じている。地域の皆様の声をいただき、さらにより良い学校にしていきたいと説明がなされた。また、最後に、本日も参集いただいたことに対する御礼が述べられた。

○資料「令和元年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、副校長より以下の報告がなされた。

1. 目指す学校像

資料をもとに以下 7 項目について説明された。

- (1) 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
- (2) 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
- (3) 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
- (4) HR 活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
- (5) 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
- (6) 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
- (7) 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校

2. 中期目標

副校長より、目指す学校像に基づき、具体化したものを中期目標として示していると説明がなされた。その後、以下の内容について説明が行われた。

○学習指導

・「教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている」について、保護者において 2018 年度肯定的意見 57.2%であったが、2019 年度肯定的意見 65.6%と向上した。教員が生徒の悩みや思いをしっかりと聞いているかということを表している項目である。教員に対し、身近な支援者として一定の役割を果たしていると評価いただけた結果と考えられると説明がなされた。

・「教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている」に対しては、まだまだ到達点を上げていく必要があり、「わかる

授業」「対話的で深い授業」を通して、学ぶ喜びを生徒に実感してもらえるよう研鑽を図りたいと説明がなされた。

・「教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図るように授業を工夫し、補習や個別指導を行っている」に対し、教員が生徒に寄り添い、フォローが手厚いと感じてもらっている結果であると説明がなされた。しかし、個別指導が手厚くなる反面、集団としての運営が難しい状況も存在することは確かであると説明がなされた。

・「教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している」については、生徒・保護者ともに肯定的意見が向上した。英語検定については、受験する生徒も増えており、教員の支援が認められた結果であると説明がなされた。

○生活指導

・「入学してよかった・させてよかった」については、3年生において肯定的意見 80.5%であり、学年を重ねるごとに、経年を通じて教員との関係性、学習に対する支援に理解をいただいていると考える。ただし、1年生から肯定的意見が増えるよう努力をする必要があると説明がなされた。

・「学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している」については、保健室・カウンセラーの丁寧な対応が浸透してきており、集団的な支援体制が整ってきていると説明がなされた。

・「教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している」については、肯定的意見が増えていることは非常に喜ばしく、若い教員が増えている中、その情熱が生徒・保護者へしっかりと伝わっている結果であると説明がなされた。

・「緑涼祭や弁論・コーラス大会、修学旅行、校外学習、課外活動等、学校生活は楽しく充実している」については、2018年度最も肯定的意見が高かった項目であるが、減少した結果となった。教員において、生徒への個別対応はしっかりと行えているが、教育技術も必要とされる集団としての運営やリーダー育成等については、まだまだ課題があると説明がなされた。

・「教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している」については、生徒の肯定的意見は2018年度 59.5%であったが、2019年度は 56.3%と減少している。クラス集団やクラブ等での指導について、若い教員の研鑽が必要と考えると説明がなされた。

・「学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている」について

は、生徒と保護者における肯定的意見の割合の差が最も大きい項目である。身だしなみの指導と生徒個々に対する個別指導との両立は難しいところがあるが、生徒に理解される指導が求められていると説明がなされた。

・「学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている」については、保護者は肯定的意見が増えたが、生徒で減少している。本校では学期ごとにアンケート（1 学期：無記名、2・3 学期：記名）を実施し、まずは担任が確認、対応が必要な案件については学年等で速やかに対応する体制をとっているが、まだまだ研鑽を重ね、取り組みを継続する必要があると説明がなされた。

・「学校は、人権について生徒の意識が高まるように講演会や日々の教育を通じて指導している」については、平和・ジェンダー・人権等について各界で活躍されている外部講師を招き、講演いただいております、それが生徒に伝わっていると考えたと説明がなされた。

○教員研修

・「学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている」については、校長講和を通じ、繰り返し伝えているが、日常の教育において十分に浸透していないことが課題であると説明がなされた。

○進路指導

・「教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している」については、よりの確で親身な指導を実現できるよう教員の資質向上を図っていききたいと説明がなされた。

○その他

・「学校は学年通信やお便り、谷学ネット、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている」については、保護者の肯定的意見が増えており、ホームページや谷学ネット、学年通信等が保護者に目に見える形式で伝わっている結果であると説明がなされた。

・「学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないように配慮している」については、古い校舎を大切に使うという意識はあるが、老朽化に伴う不具合が発生するなど、メンテナンスが喫緊の課題となっていると説明がなされた。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

副校長より、以下の内容について説明が行われた。

○学習指導

・「英語検定などの各種検定の周知徹底と合格への支援を一層充実させる」について、本校の特徴でもあると説明がなされた。合格実績はまだまだであるが、受験者が昨年度に比べて大幅に増加しており、生徒のチャレンジ意欲は大きい。学習への基礎はできてきていると説明がなされた。また、今年度については英語検定準 1 級へ合格した生徒がいることは大変喜ばしいと報告された。

○教員研修

・「3 高校合同教員研修会の実施」について、毎年、3 高校の実行委員会で協議を重ね、輪番で開催している。昨年度は本校が当番校であり、和歌山大学教育学部准教授による講演、8つの分科会、フィールドワーク、全体交流会を開催した。本校では調理・製菓の実習体験型分科会と藤井寺市・葛井寺の協力を得て、地域を学ぶフィールドワークに取り組んだ。他の 2 高校へ地域とのつながりを伝えることができた」と説明された。

○進路指導

・昨年度 4 年制大学へ 79 名中 34 名が進学し、前年度に比べ、4 年制大学への進学が倍増した。「入れる大学」よりも「入りたい大学」を希望する生徒が増加したと説明がなされた。

○その他

・定期的に生徒会主催でクラブ員を中心とした地域清掃活動に取り組み、校内外のマナー向上を実践した。その後、通学中に見守り隊の方から生徒がゴミを拾っていたとほめていただいたこともあり、地域の方とつながりを重ねていった成果であると説明がなされた。

副校長からの説明終了後、藤井寺市教育長、藤井寺市区長会会長、春日丘自治会副会長、辛國神社宮司より、次のとおり質問・感想が述べられ、本校管理職と意見交換を行った

意見……「入学してよかった」について、3 年生で肯定的意見が上がっているが、2 年生で下がるのはなぜか。2 年生をしっかりと維持できれば、学校自体の評価が上がるのではと思う。

回答……2 年生については「中だるみ」もあると考えられる。令和 3 年 2 月に行う次のアンケート結果を楽しみにしたいと考える。今年の 1 年生から 2 年生になった生徒の結果にも注目したい。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響も

懸念される。

意見……1年生の結果より2年生の結果が倍以上高い項目を確認すると、教員とかかわりがある項目である。教員がかかわっている部分も徐々に上がっており、教員の頑張りが確認できる。教員は何名か。

回答……全ての教員を含めると100人以上になる。日常的に生徒とかかわる教員は約50名である。

質問……教員に対する内部評価はあるのか。

回答……公立の学校には教員の評価・育成システムがある。しかし、本校では転勤等がほとんどないこともあり、評価制度は行っていない。教員は、年齢や経験を蓄積し、成長をしていく。管理職は教員と日々話を行っており、教員に対する声かけもかなり多いと思う。

意見……「入学してよかった」は最も重要な項目であるのに、2年生の満足度が低いことが気になる。2年生は前年度の結果においても厳しい回答であった。一方で「健康維持の支援」「教員は相談等に丁寧に応じている」「わかりやすい授業を行っている」等の結果は悪くない。学校生活は悪くないのに、入学の満足度は低いことが気になった。

質問……「朝礼・終礼、ホームルーム活動等を生徒指導やクラス作りのために活用している」「緑涼祭等、学校生活は楽しく充実している」について、1年生が非常に低い。1年生は行事等がないのか。

回答……修学旅行は2年生で行くため、まだである。

意見……「遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている」について、全体的に評価が低い。生徒指導について全体的に評価が落ちてきている。

意見……いじめに関しては、どちらともいえないとの回答が増えてきている。生徒と保護者の回答における格差が大きいことも気になった。

意見……学校評価そのものについて、法律で位置づけられたもので、毎年行わなければいけない。それまでは学校現場というのは閉鎖的な一面があり、それではいけないため制度改革が行われてきた。学校評価を行うことにより、学校がよくなってきたと実感できるようになるべきである。いかがか。

回答……日々の学校運営の中で、アンケート結果の要因や背景を、分析しきれない点もあり、

このような意見をいただけるのはありがたい。生徒数の増加に伴い教員はかなり増えてきており、世代交代が進んでいる状況にある。教員は若い方が多く、熱意溢れるけれども経験が浅い部分もある。キャリアのある教員とのバランスを考えて、対応を行っている。学校評価を行う必要があるから行っているのではなく、行うことで様々な意見をいただけ、学校がさらによくなっていくと考えている。

意見……産学連携を含め、地域とのかかわりも増えてきている。公立の学校も学びたい。

意見……子どもたちは2年生になって、学校生活においてやるべきことが増えてきている。3年生は「入学してよかった」について、80%以上が肯定的意見である。卒業時に終わりよければすべてよしである。昔からこちらの学校を見させていただいている。生徒はだらだらとすることなく、良くなっていると思う。共学になり変化してきたこともある。これからも見守らせていただきたい。

意見……18歳で成人となり、一番変化があるのが高校である。もちろん家庭教育もしっかりしなければならぬが、学校としてどのように取り組んでいくのが大切である。地域で学ばせることも非常に大事である。

意見……調理製菓科など生徒の目的がしっかりしていると、3年生になったとき、生徒の姿勢が違う。

意見……生徒がゴミを拾ったことを見守り隊の方に褒められたとのお話を伺った。地域に好かれる生徒でなければ学校は発展しない。幼稚園での体力測定や地域のイベントを手伝うなど、地域へ生徒が出ていく機会がもっとあってもいいのではないか。さらに学校がよくなっていくと思う。

意見……下校時に制服姿でうろうろとしている生徒を見かけることがない。放課後もいい状況となっていると思う。禁止されているのか。

回答……禁止ではない。新型コロナウイルス感染症予防について生徒たちが留意しており、食堂等も放課後開放していることもあって、あまり校外へ行かないのではないか。

回答……地域との交流については新型コロナウイルス感染症の状況もあるため、外部に出ていくことは現在控えている状況である。しかし、本校への受け入れについてはきちんと新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、行っていきたい。11月23日に「秋のカルチャー講座」を藤井寺市と連携し小中学生対象に開催する。

回答……地域との連携は今後も続けていきたいし、いかなければならない。藤井寺市と現在協議をしており、来年にはスポーツ教室を開催し本校の多くのクラブが参加し、実施する方向で進めている。今年の「秋のカルチャー講座」の案内も来週中には

各小中学校へ届くこととなっている。

回答……来年の学校評価の頃には、より良い報告を行いたい。

意見……私立の学校はますます情報公開をすすめている。そのことが生徒たちのたくましい成長につながるなら、うれしいことだ。

回答……普通科総合進学コースにおいては、3つの系統を設定している。新型コロナウイルス感染症がなければ、地域とのかかわりを深め、フィールドワーク等で自分たちが学んでいる地域を知ってもらいたかったができていない。次年度からは4つ目の系統として「食と農マネジメント」を開設する。この地域は農産物の産地でもあり、生産地の苦勞等を学ばせたい。将来、食や農業にかかわっていけるようにしていきたい。地域の農業とのつながりを持ち、交流ができれば、この地域の学校へ通う意味が深まると思う。

回答……配布している「学びのインターンシップ」で教育内容をご確認いただきたい。生徒は入学時にはまだまだ進路が定まっていない。教育を通して、なりたい自分を探してもらおう。また、地域活動を通して、幼稚園から小中学校、短大・大学、社会へと進路の一体感が出てくれば、実際の評価も上がっていくと考える。

意見……パン等を作って、生徒が販売するといったことを行うと面白い。

回答……藤井寺の商店街等のアンテナショップで活動することや、アイセルシュラホールのカフェ等で調理製菓科が何か役に立てることはないか、話を進めているところである。施設設備や衛生面等について確認させていただきながら進めていきたい。まず、第一歩が「秋のカルチャー講座」の開催である。

意見……アイセルシュラホールにて何か月かに1回、緑涼高校のパンを売るとかはどうか。生徒の学びになる。

回答……本日、試食・体験いただいたレストラン実習を地域で行うことも考えられる。しかし、調理環境や衛生面を考慮しつつ将来的には実施したいと担当者とは話をしている。

意見……ぜひ、実現してください。

意見……レストランを市民に開放したら、生徒側にもメリットはある。学校でレストランをやっているところはなかなかない。

回答……今回試食いただいたレストラン実習は生徒たちがずいぶん上達してきている時期

である。行う時期も見極める必要がある。場所を提供いただけるのはありがたい。高校の勉強をしながら、養成校としての学習も行っている。ある種の制約もあるが、本校としてもレベルアップしながら地域へ出していけると思う。

質問……ライセンスは既に取得済みか。

回答……卒業時に調理師免許を取得する。

回答……製菓衛生師のライセンスは、91%の合格率であった。調理製菓科の男女割合は半分半分である。女子は特に調理師免許を取得したうえで、栄養士・管理栄養士を取得できる大学等へ進学する道もある。管理栄養士は国家試験を受験する必要もあり、よりたくましい子が育つ。栄養士・管理栄養士養成を持っておられる学校と連携協定も締結している。

質問……共学になってどうか。

回答……体育祭からして今までとは違う。しかし、本校は女子校ベースのため、男子もおとなしい。挨拶してくる生徒は男子も多い。持ち前の明るさで盛り上げるなど、元気な生徒もいる。

意見……悪い意味で目立つ子がいない。

意見……子どもたちはきらきら輝いている。現在、割り算や分数のできない生徒もたくさん社会で存在している。しかし、進路として目指すものが明確になると子どもは成長をする。キャリア教育で、子ども1人ひとりが目標を見つけることをいかにサポートするかが学校として大切であり、これからの主流となってくる。ヨーロッパなどでは社会活動等で学校にいない状況もある。生徒にとってわかりやすい授業の設定も大事である。子どもが主体となる教員改革が必要である。大阪緑涼高校はしっかりとされていると思う。

回答……多くの意見をありがとうございました。地域に根差した、地域があってこそその大阪緑涼高等学校です。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

以上

2019年度 学校評価アンケート集計

設問	学年	5 そう思う	4 大体そう思 う	3 どちらとも 言えない	2 あまり思わ ない	1 そう思わな い	-	+
1 あなたは本校に入学してよかった 子どもを本校に入学させてよかった	1年	22.8%	33.0%	27.4%	7.6%	9.1%	16.8%	55.8%
	2年	19.0%	27.9%	27.2%	16.3%	9.5%	25.9%	46.9%
	3年	54.5%	26.0%	11.7%	1.3%	6.5%	7.8%	80.5%
	全学年	32.1%	29.0%	22.1%	8.4%	8.4%	16.8%	61.1%
	保護者	40.9%	34.6%	15.2%	4.9%	4.4%	9.3%	75.5%
2 学校は建学の理念や教育目標をわかりやす く示し、教育に反映させている。	1年	13.8%	30.3%	40.5%	10.8%	4.6%	15.4%	44.1%
	2年	9.5%	21.1%	43.5%	16.3%	9.5%	25.9%	30.6%
	3年	35.9%	26.9%	28.2%	2.6%	6.4%	9.0%	62.8%
	全学年	19.8%	26.1%	37.4%	9.9%	6.8%	16.7%	45.8%
	保護者	21.0%	35.6%	31.6%	8.5%	3.3%	11.8%	56.6%
3 学校は学年通信やお便り、谷学ネット、ホー ムページ等で、生徒・保護者への連絡や学 校への様子をお知らせしている。	1年	15.1%	37.2%	38.2%	5.5%	4.0%	9.5%	52.3%
	2年	16.3%	25.9%	42.2%	10.9%	4.8%	15.6%	42.2%
	3年	37.2%	26.9%	26.9%	1.3%	7.7%	9.0%	64.1%
	全学年	22.9%	30.0%	35.8%	5.9%	5.5%	11.4%	52.8%
	保護者	20.8%	42.1%	27.3%	5.7%	4.1%	9.8%	62.8%
4 学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウ ンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健 康維持を支援している。	1年	16.1%	38.2%	38.2%	2.5%	5.0%	7.5%	54.3%
	2年	16.9%	35.1%	37.8%	6.8%	3.4%	10.1%	52.0%
	3年	37.7%	31.2%	22.1%	2.6%	6.5%	9.1%	68.8%
	全学年	23.5%	34.8%	32.7%	4.0%	5.0%	8.9%	58.4%
	保護者	19.5%	37.9%	32.4%	6.4%	3.8%	10.2%	57.4%
5 教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を 出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導 やクラス作りのために積極的に活用してい る。	1年	12.6%	32.2%	34.2%	12.6%	8.5%	21.1%	44.7%
	2年	23.6%	35.1%	27.7%	8.1%	5.4%	13.5%	58.8%
	3年	42.3%	29.5%	20.5%	3.8%	3.8%	7.7%	71.8%
	全学年	26.2%	32.3%	27.5%	8.2%	5.9%	14.1%	58.4%
	保護者	23.4%	35.6%	32.4%	4.7%	3.9%	8.6%	58.9%
6 教員は、学習に関する質問や高校生活に関 する相談等に丁寧に応じている。	1年	19.6%	31.7%	32.7%	7.5%	8.5%	16.1%	51.3%
	2年	27.2%	34.7%	27.9%	8.2%	2.0%	10.2%	61.9%
	3年	42.9%	27.3%	19.5%	5.2%	5.2%	10.4%	70.1%
	全学年	29.9%	31.2%	26.7%	7.0%	5.3%	12.2%	61.1%
	保護者	24.6%	41.0%	26.0%	4.9%	3.5%	8.4%	65.6%
7 教員は、生徒の習熟度や様子を確認しなが ら、教科の目標に沿ったわかりやすい授業 を行っている。	1年	15.1%	30.7%	39.2%	7.5%	7.5%	15.1%	45.7%
	2年	15.5%	34.5%	38.5%	9.5%	2.0%	11.5%	50.0%
	3年	39.7%	32.1%	21.8%	1.3%	5.1%	6.4%	71.8%
	全学年	23.5%	32.4%	33.2%	6.1%	4.9%	11.0%	55.8%
	保護者	16.0%	39.3%	34.1%	6.3%	4.3%	10.6%	55.3%
8 教員は英語検定や漢字検定や将来に必要な 資格の情報を提供し、取得できるように指 導・支援している。	1年	20.6%	35.7%	33.7%	5.5%	4.5%	10.1%	56.3%
	2年	25.7%	35.8%	29.7%	5.4%	3.4%	8.8%	61.5%
	3年	46.2%	30.8%	17.9%	2.6%	2.6%	5.1%	76.9%
	全学年	30.8%	34.1%	27.1%	4.5%	3.5%	8.0%	64.9%
	保護者	23.0%	41.7%	24.1%	7.6%	3.6%	11.2%	64.7%
9 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を 図るよう授業を工夫し、補習や個別指導を 行っている。	1年	16.6%	40.7%	33.7%	3.5%	5.5%	9.0%	57.3%
	2年	20.3%	37.2%	35.8%	4.1%	2.7%	6.8%	57.4%
	3年	46.1%	26.3%	21.1%	3.9%	2.6%	6.6%	72.4%
	全学年	27.6%	34.7%	30.2%	3.8%	3.6%	7.5%	62.4%
	保護者	20.0%	37.7%	31.8%	6.2%	4.3%	10.5%	57.8%
10 教員は進路について、総合の時間や個別面 談を通じて情報を提供し、丁寧に指導してい る。	1年	13.6%	38.4%	37.4%	4.5%	6.1%	10.6%	52.0%
	2年	23.6%	35.1%	34.5%	4.7%	2.0%	6.8%	58.8%
	3年	46.1%	26.3%	21.1%	1.3%	5.3%	6.6%	72.4%
	全学年	27.8%	33.3%	31.0%	3.5%	4.5%	8.0%	61.1%
	保護者	24.6%	38.3%	28.3%	4.9%	3.9%	8.8%	62.9%
11 緑涼祭や弁論・コーラス大会、修学旅行、校 外学習、課外活動等、学校生活は楽しく充 実している。	1年	23.1%	30.2%	26.1%	14.1%	6.5%	20.6%	53.3%
	2年	24.5%	35.4%	27.9%	6.8%	5.4%	12.2%	59.9%
	3年	63.6%	16.9%	14.3%	1.3%	3.9%	5.2%	80.5%
	全学年	37.1%	27.5%	22.8%	7.4%	5.3%	12.7%	64.5%
	保護者	39.0%	34.3%	16.2%	6.8%	3.7%	10.5%	73.3%
12 教員は、充実したクラブ活動、生徒会活動等 ができるように指導・支援している。	1年	18.6%	26.6%	40.7%	8.0%	6.0%	14.1%	45.2%
	2年	16.9%	32.4%	39.2%	6.8%	4.7%	11.5%	49.3%
	3年	57.7%	16.7%	16.7%	3.8%	5.1%	9.0%	74.4%
	全学年	31.1%	25.2%	32.2%	6.2%	5.3%	11.5%	56.3%
	保護者	23.1%	38.5%	28.1%	5.9%	4.3%	10.2%	61.7%
13 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、 適切な指導を行っている。	1年	18.6%	24.6%	30.7%	13.6%	12.6%	26.1%	43.2%
	2年	22.3%	28.4%	28.4%	10.8%	10.1%	20.9%	50.7%
	3年	36.4%	26.0%	23.4%	6.5%	7.8%	14.3%	62.3%
	全学年	25.8%	26.3%	27.5%	10.3%	10.2%	20.5%	52.1%
	保護者	21.0%	40.8%	21.3%	10.8%	6.1%	16.9%	61.8%
14 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で 実態を把握し、迅速に問題を把握するととも に、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して 丁寧な対応をしている。	1年	13.1%	28.1%	43.7%	7.5%	7.5%	15.1%	41.2%
	2年	14.2%	23.0%	48.0%	8.1%	6.8%	14.9%	37.2%
	3年	41.0%	20.5%	32.1%	0.0%	6.4%	6.4%	61.5%
	全学年	22.8%	23.9%	41.2%	5.2%	6.9%	12.1%	46.6%
	保護者	14.9%	32.8%	40.4%	5.7%	6.2%	11.9%	47.7%
15 学校は、人権について生徒の意識が高まる 様に講演会や日々の教育を通じて指導して いる。	1年	15.1%	32.7%	42.2%	5.5%	4.5%	10.1%	47.7%
	2年	20.4%	35.4%	34.7%	6.1%	3.4%	9.5%	55.8%
	3年	39.7%	30.8%	23.1%	0.0%	6.4%	6.4%	70.5%
	全学年	25.1%	32.9%	33.3%	3.9%	4.8%	8.7%	58.0%
	保護者	14.8%	32.3%	42.6%	6.3%	3.9%	10.3%	47.1%
16 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時 間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生 活に支障がないよう配慮している。	1年	16.2%	29.8%	38.9%	9.1%	6.1%	15.2%	46.0%
	2年	17.8%	32.9%	26.7%	11.0%	11.6%	22.6%	50.7%
	3年	46.2%	23.1%	24.4%	1.3%	5.1%	6.4%	69.2%
	全学年	26.7%	28.6%	30.0%	7.1%	7.6%	14.7%	55.3%
	保護者	22.1%	39.7%	27.1%	6.1%	4.9%	11.1%	61.8%

2019年度 学校評価アンケート 比較グラフ



